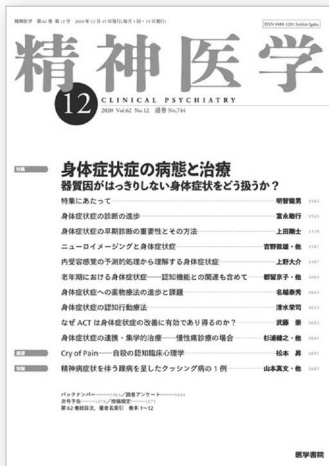




『精神医学』2020年12月号 (Vol.62 No.12)
身体症状症の病態と治療
器質因がはっきりしない身体症状をどう扱うか？
定価 2,970 円／B5 判・128 頁／医学書院／2020

器質因がはっきりしない身体症状に悩む患者は少なくない。しかし、たとえば慢性疼痛は、未だ十分に解明されてはいないが、感覚のみならず情動に関連する複合的な脳領域（ペインマトリックス）が関与していることが、脳科学研究により示されている。機能性消化管疾患の病態に関しても、消化器運動の知覚過敏や腸内細菌叢の変化、さまざまな心理社会的要因に加え、慢性疼痛同様の病態がその本質であることが想定されている。その病態と治療について専門家が解説した。